

たまつり

人口と世帯数

48年3月1日現在
(単位・戸、人)
総人口 13,929 人
男 6,817 人
女 7,112 人
世帯数 3,067 戸

(毎月1回発行) 発行人町長 坂本常蔵 昭和38年1月23日第三種郵便物認可
印刷所 さんゆう社印刷 定価10円



士気あふれる

十一月二十四日、この日は風も余りなく天候もわりに良いといった良コンディションの玉造中グラウンドで消防二大行事である秋季点検が行われました。

操法大会も計画され一回に二チームづつが日頃の訓練ぶりを競い合い、まわりで見守る同士の中では、出場選手に『ヨシ！うまい！』などと声援を送ったり各チームの操法終了時には、たぐさんの拍子で迎えるなど消防ならではの場面がうかがわれました。『今年は、どここなく皆上手だ』という声も盛んに聞かれていたようでした。当日の参加チームは小型動力ポンプ二十三チーム・自動車ポンプ六チームのうち、つぎのような結果成績でした。

▼自動車ポンプの部

優勝 一分団—二部 (根古屋)
準優勝 本部

▼小型動力ポンプの部

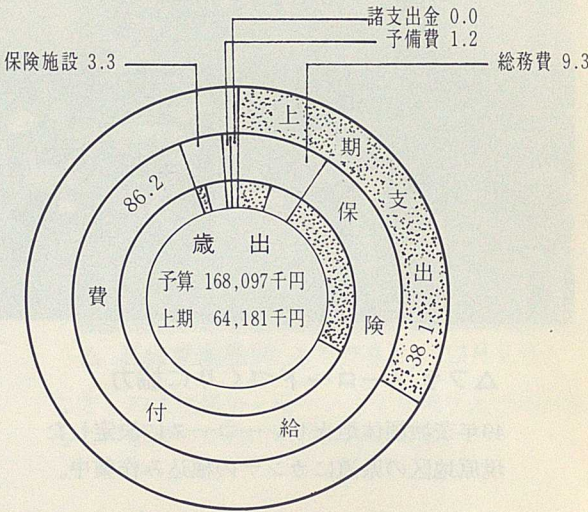
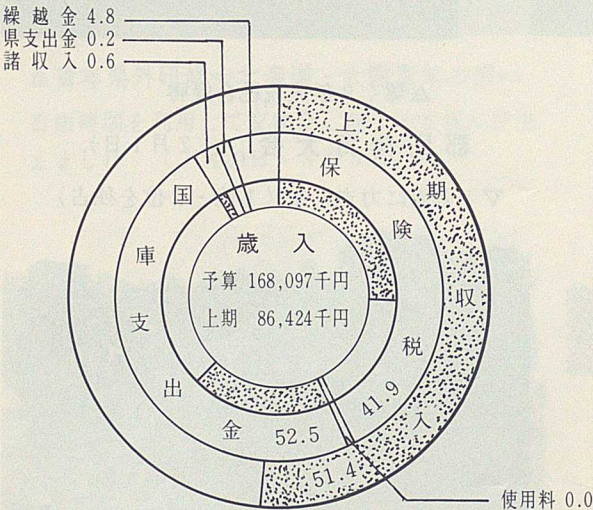
優勝 一分団—四部 (西蓮寺)
準優勝 三分団—二部 (加茂・横町)
三位 一分団—三部 (西谷)
四位 四分団—五部 (若海)
五位 四分団—六部 (谷島)

なお、自動車の部準優勝までと動力ポンプの部三位までのチームは今年七月に行われた県大会行方地区大会・行方郡消防操法大会に出場し両部とも優勝、他の分団も上位を独占しました。

③国民健康保険の歳入歳出の状況

昭和48年9月末日現在
世帯数 2,452
被保険者数 10,407

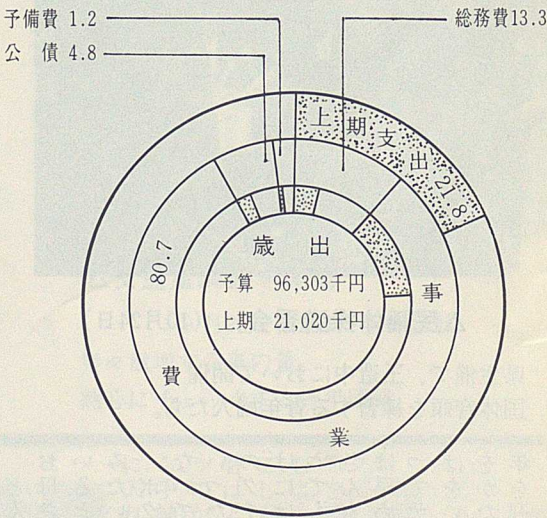
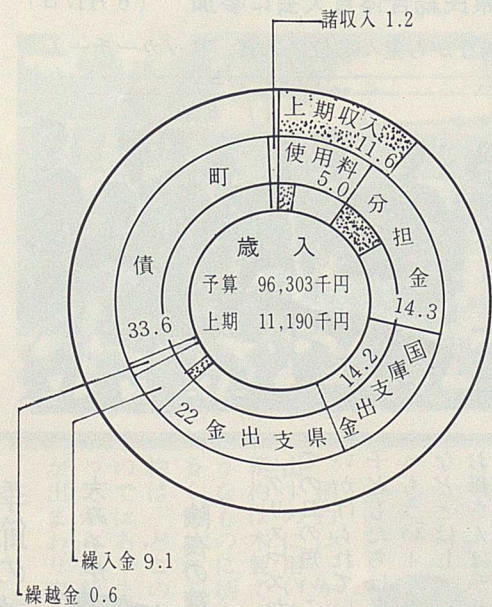
種 目	世 帯 当	加入者1人当
歳 入	35,246	8,304
歳 出	26,174	6,167



④水道事業歳入歳出の状況

種 目	加入世帯当
歳 入	20,089
歳 出	37,737

昭和48年9月末日現在
加入者数 557



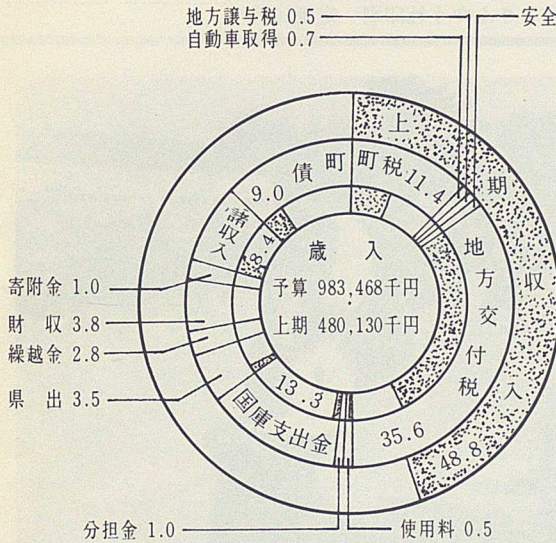
水道事業起債額 53,800千円

財政事情書

昭和48年4月1日～昭和48年9月30日

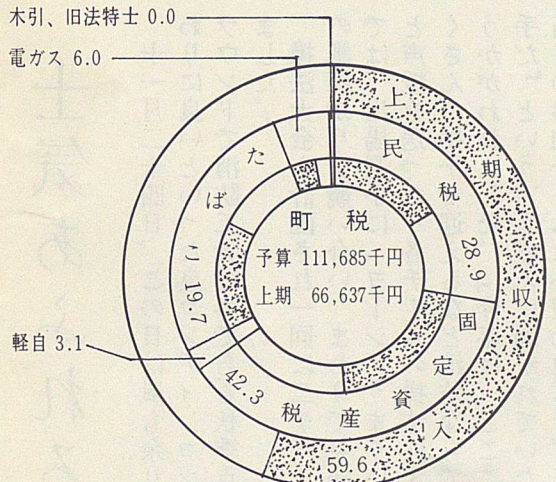
地方自治法第243条の3にもとづく「財政事情書の作成及公表」に関する条例のさだめるところにより
玉造財政事情書を公表いたします。

①一般会計の歳入歳出の情况

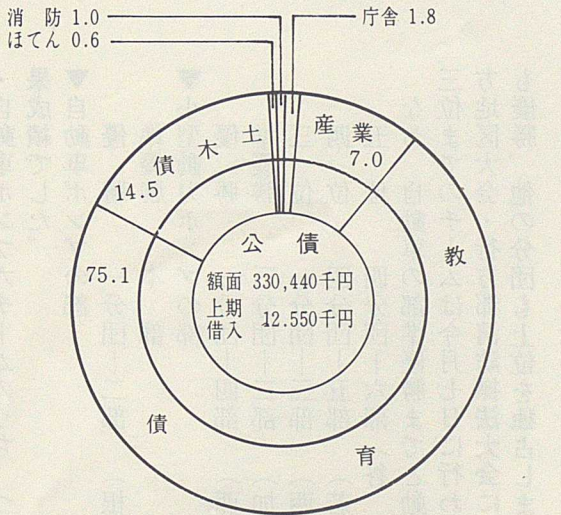
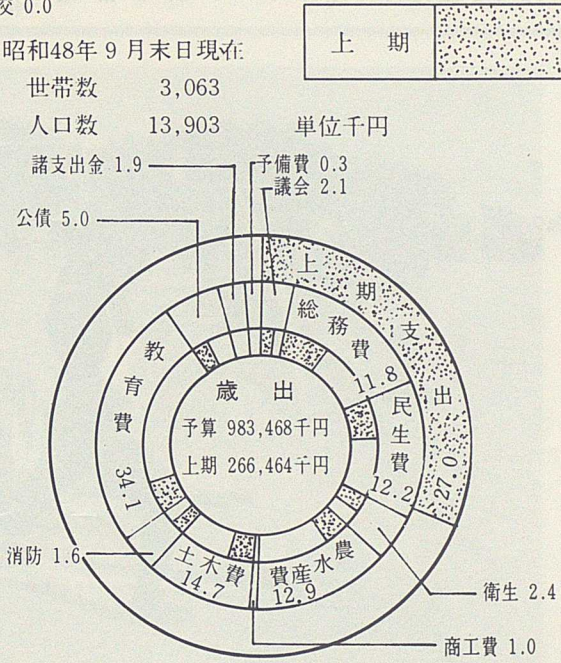


種 目	世 帯 数	人口1人当
歳 入	156,751	34,534
歳 出	86,994	19,165

②町税及公債の状況



種 目	世 帯 当	人口1人当
町 税	21,755	4,792
直接税	16,555	3,447
間接税	5,199	1,145



種 目	世 帯 当	人口1人当
町 税	21,755	4,792
直接税	16,555	3,447
間接税	5,199	1,145



△青年県外研修—北海道・大雪青年の家—
自由時間を利用して交換会。数々の友情が芽生えました（7月29日～8月3日）



△石崎学園慰問(もちつき) (12月9日)
ことしの文化祭コーヒーショップで売り上げのお金もこの慰問のためにされたものです。



△町民運動会参加 (11月11日)



△町民体育大会が青年団主管で開催
バレーボール(6月3日)

青年団1年



△交通量調査を実施
9月22日～23日(24時間)
年々激増する車の量。
熱心にチェックする青年団員。



△フラワーロードづくりに協力
49年茨城国体炬火リレーコースに決定した
現原地区の県道にカンナの植込み作業中。



△輝く9年連続総合優勝
郡民体育大会 (7月1日)
▽1万米に力走する(1位・2位を独占)

間のあゆみ

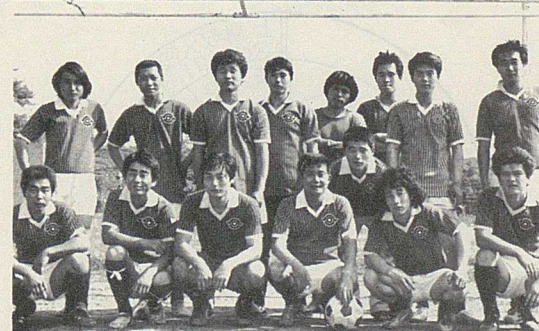


△民謡体操講習会 (10月24日)

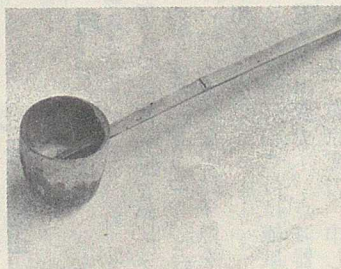
県主催で、玉造中において開催
国体音頭を練習する青年婦人たち。



▽県民総合体育大会に参加 (6月17日)
初出場ながら堂々3位に入賞。サッカーチーム



柄杓は、かめから水を汲み出すのに用いました。普通の柄杓は木製で、小さい桶のようなものに柄をつけたものが多く使われていました。竹柄杓は、どこの家でも使ったものではありせん。昭和になってから亜鉛板で出来たものが出まわり変ってきました。



竹柄杓は孟宗竹の節を底になるよう太いものを切り、外側を削り取って中頃がふくらむように形づくり柄をすげてこしらえたものです。昔はこの家でも水がめというのが台所にあつて、井戸から手桶へ水を汲み運んでかめに入れ炊事に使ったものです。

竹柄杓 (19)

たまごりの
民俗資料



季節の話題

大みそか

除夜の鐘



クリスマスから大みそかまでの日の短いこと、まるで追いかけてらるるようです。子どもたちは冬休み、へもういーくつ寝るとお正月などとはしゃいでいるのに、お母さんばかりがせかせか動き回っている姿は子どもさんから見ると何ともふしぎな光景です。どんな小さなお子さんでもお母さんが忙がしそうにしているときは、お手伝いをしてみたい気持ちがあるものです。ボクの大事な本を相談もしないで片づけしてしまう……といった、子どもは子どもなりのグチがあるものです。片づけにはぜひお子さんにも手伝ってもらふことにして、お母さんもおみそかには台所仕事は早めに切りあげ、家族そろってテレビを見たり、年越しそばをいただき、除夜の鐘に耳をかたむけ、心を澄まして新年を迎えましょう。

国体ガイド

旗・炬火リレーコース

リレーコースの選定には、市町村の希望を基に、最短距離で主要道路を通ること、交通安全上問題のない道路などを検討して設定されます。秋季大会の開会式一週間前から鹿島・筑波・東海の三コースにわかれてリレーし、十月十九日県庁前で集火されて十月二十日開会式場の笠松競技場に向って県庁前を出発します。七千七百人となります。

つぎにコースの概略をお知らせしますがここでは関係のある「鹿島コース」のみについて掲載します。

鹿島町―神栖町―波崎町―大野村―大洋村―旭村―鉾田町―玉造町―麻生町―北浦村―潮来町―牛堀町―東村―桜川村―江戸崎町―美浦村―阿見町―土浦市―出島村―千代田村―石岡市―八郷町―岩間町―美野里町―玉里村―小川町―茨城町―水戸市の順で約四百

けられるようにと納めるチャンスを与えられたのが、こんどの時効保険料の特別納付です。

納付の対象になるのは、任意加入を除いた被保険者期間のうち、時効によって保険料が納められなくなった期間の保険料で、昭和四十八年四月一日以前のもので、納められる期間は昭和四十九年一月から昭和五十年十二月末までの二年間です。

自分の保険料の納めた状況を確かめて、納め忘れた期間がありましたらこの機会に早めに整理しましょう。

電力節約 事故防止

・アイロンかけは一気にするのが上手に使うコツ。うすいハンカチなどは予熱を利用して有効に。

・ヒルマ街灯の点灯は無駄な電気の消費です。点滅器の故障は、東京電力へ申し込みましょう。

・コタツを出る時は手まめに消して。

事故防止

・ねれ手で電気機器を扱うのは危険、よく手を拭ってから取扱しましょう。

・スイッチ・コンセント・安全器などの破損しているのは取り替えて使用を。

・電気の節約は石油の節約にもつながります。気を配りましょう。

忘れずに届出を

（高齢特別給付金）
がうけられます
現在明治三十九年四月一日以前に生まれた方で七十歳未満の方は、こんど月四万四千円の年金が受けられることになりました。該当者は早目に届出をしてください。

この給付金は通常の福祉年金のように所得によって制限されず、また退職年金や軍人恩給などの公的年金を受けているための併給調整もありません。届出のときに、その年金証書と印かんを持って役

場年金係までおいでください。また、特別給付金を受けている方が七十歳になったときは、自動的に月五〇〇〇円の老齢福祉年金に切り替えられますので、改めて請求の手続きは必要ありません。

附加年金（所得比例制）に加入しましょう
こんどの改正で年金額が中に引き上げられ、二十五年納めて月二万円ですが、もしこれより多く受けた方には附加年金をおすすめします。これは定額保険料九百円（定額分）プラス四百円（附加保険料）あわせて千三百円納めるしくみになっています。

この場合は二十五年度で月二万五千円が支給されます。附加年金は国民年金で保険料の免除を受けている人を除けば誰でも加入できます。

保険料の納め忘れ 特別納付で
国民年金の保険料は、二年を過ぎると時効になり、納めなくても納められなくなり、納めた年数が少なくなると、年金額が低くなったり、場合によっては、期間が短いことに年金が受けられないことも生じます。納め忘れた期間を未納にしておくと、永久に年金が受けられなくなるのでこれらの人々にも年金が受

けられるようにと納めるチャンスを与えられたのが、こんどの時効保険料の特別納付です。

納付の対象になるのは、任意加入を除いた被保険者期間のうち、時効によって保険料が納められなくなった期間の保険料で、昭和四十八年四月一日以前のもので、納められる期間は昭和四十九年一月から昭和五十年十二月末までの二年間です。

自分の保険料の納めた状況を確かめて、納め忘れた期間がありましたらこの機会に早めに整理しましょう。

年末年始 事故防止

例年、年末は経済活動が一段と活発になるので、車や人の動きが激しくなり、一年のうちでも交通事故の最も起りやすい時期に当たっています。

このため、警察では、年末にふえる酒酔い運転、無免許運転、歩行者保護違反などの取締りを目的とした、交通検問を強化するほか、事故多発点での速度違反や追越違反などを対象とした取締りや駐車違反などの取締りも強化することになっています。

○飲酒する時と場所をわきまえて、飲んだら絶対にハンドルを握らないことを忘れないこと。
一方、歩行者は――

○急いでいるときでも、横断歩道などによる正しい横断の励行に努める。
○車の直前直後の横断は絶対にしないようにする。
などを守るようにして事故の防止をはかりたいものです。



三年小沼治朗

ママ
ぼくは、うんどう会にはくつを買ってもらいました。はいたらびつたりでした。ぼくは、うんどう会が、たのしみです。少し日にちがたつてから、まえじまで、赤白ぼうしを買いました。うんどう会になったので、早おきをしました。うんどう会がはじまりました。ぼくらは、一回めに、かけっこをしました。ぼくは、さいしょは一ばんでした。それがぬかされて三ばんになってしまいました。でもせいっぱいがんばりました。とてもいきがきれました。そしておひるになりました。おべんとを食べていたら雨がふってきました。雨がつづけました。雨がふっているのが赤白ぼうしがびしょぬれです。うんどう会が終わってからは、おかしを、もらって帰りました。ことしは、雨がふってしまつてさんねんではなかった。



二年井野場 充

うんどう会

飲酒運転をしない・させない わが家のほこり

（飲酒運転追放）

○横断歩道の手前での一時的停止を励行して歩行者の通行の安全をはかる。
○速度を出しすぎないように常

みんなで温かい手を

毎年十二月になると行われる運動です。不慮の災害等によりめぐまれない生活を、あるいは自宅施設病院等で苦しみに耐えながら淋しい生活を送っている方がおられます。これらの方々に、皆さんがたの温かい協力をお願いし、明るいお正月を迎えることができますようお願いします。今年も町では民生委員協議会を通して歳末助け合い募金運動を計画しました。御協力ください。

公給領収証は必ず受けて

十日から三十一日までを「全受領強調運動」これは利用者が代金を支払ったときにその店の経営者は「料理飲食等消費税」を県に代って受けとつたしるしとして、利用者に必ず交付することになっております。なお、つぎのような場合には免税となります。

宿 泊……一人一泊二食付の料金が二千四百円以下。
飲食店……一人一回の料金が千二百円以下。
前売食券……一品の価格が六食 堂……百円以下。
○料理店・バー・キャバレーはもちろん旅館・飲食店でも遊興を伴う場合には、免税点の適用はありません。

道路にゴミを捨てないで



手賀竹の
塙、新田の
県道に一ヶ
月のうちに
あき缶など
がこんな
たくさん捨
てられてい
ます。車か
ら捨てられ
るものが多
いと思われ
ますがこん
な姿はな
くしたいも
のです。協
力しまし
ょう。

短

歌

母病みて心なえゆくこの日頃八ツ手の花が白々と咲く
活けをへし菊に付ひてしばらくを娘は身じろがず何を思へる
柿の実の色ふかまりし山合ひにひと声高く百舌のとび立つ
芒野はやまず波たつ儚けれ月下まばゆく一世見えくる
夕暮れの月見草の丘をすべってゆく 君はなぜ青いくちなわ
雌斃しし鋭き性持てる金鶏鳥憎みにつつも孤独憐む
風落ちし利根の堤の穂すすきに溢るる冬陽のあたたかきいろ

貯蓄で築こう

物価のとりで

(貯蓄増強歳末特別運動)

滝崎 富美
白井 可称子
高野 梅子
松本 千枝子
伴 英彦
笹目 久子
高野 せいぎ

誕生おめでとう
ぎげいます


出産と死亡
(10月)

おみやぎ
申上げます


赤ちゃん	今泉 祐二	斎藤 ふみ子	矢口 恵美	小松崎 一美	伊藤 真治	川島 純子	角田 純一	高野 俊一	理崎 和正	池崎 是正	理崎 是正	額賀 さとみ	額賀 重兵衛	新田 正雄	額賀 正雄
保護者	正 義	忠 義	しづい	和 男	新政 夫	金 夫	忠 夫	長男	長男	長男	長男	長男	長男	長男	長男
続柄	二男	二女	二女	三女	三男	三男	三男	長男	長男	長男	長男	長男	長男	長男	長男
部 落	羽 里	諸 井	荒 宿	柄 貝	若 海	竹 埴	横 埴	根 古	新 田	新 田	新 田	羽 生	藤 井	横 須	横 須

あとがき

十二月のこよみには神事、
仏事、農事についての日ごと
に「納めの……」といった文
字で埋められています。くら
しの上で一年ずつのけじめを
つけてきた先祖のいとなんだ
仕事だったのでしょうか、年
はくり返しても、新しい年を
迎える心構えや希望をかけて
歩んできた姿でしょう。

寒さは日一日ときびしくな
り、こしもいよいよ最後の月
です。商店街は軒なみ歳末大出
し。師走・極月などという
名称と商店街の歳末気分が、
私たちのくらしのあわただし
さに輪をかけているようです。
そのあわただしいペースにま
きこまれないために、計画表
に従って自分の家の暮しを守
っていききたいものです。